

第一回模擬試験問題（国語）

受験番号
氏名

一 次のA～Cの問いに答えなさい。

A 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 片意地を張る。
- 2 感想を簡潔に表現。
- 3 臨海工業地帯。
- 4 著名人のサインをもらう。
- 5 大臣に就任する。

B 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 キュウカをとる。
- 2 肌がカンソウする。
- 3 イナサク農家。
- 4 自己シヨウカイ。
- 5 ウチユウの不思議。

C 次の1～5のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 次の□に体の一部を表す漢字一字を入れ、慣用句を完成させなさい。  
何回も同じことを聞いて、□にたこができる。
- 2 次の□に適切な漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい  
一生懸□
- 3 傍線部の敬語の種類として適当なものを次のア～ウから選び記号で答えなさい。  
父が、先生にくれぐれもよろしくと申しておりました。  
ア 尊敬語    イ 謙讓語    ウ 丁寧語
- 4 傍線部の品詞の種類として適当なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。  
彼の絵はとても不思議だ。  
ア 名詞    イ 形容動詞    ウ 形容詞    エ 動詞
- 5 日本最古の物語で、作者がだれかはわかっていないが、絵本にもなっている物語文字として適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。  
ア 竹取物語    イ 雨月物語    ウ 源氏物語    エ 落窪物語

二 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

①三葉は怒って帰ってしまった。よっぽど、オープンカフェがお気に召さなかったらしい。

「何が②カフェよ。だまされた」

缶入りの紅茶をずるずるすすりながら早耶香が言った。わざわざ音を立てているのは不機嫌の表明であろう。

「気の持ちようやわ、そんなもんは」

「何だよ、その精神論はー」

早耶香が勅使河原の腕を肩で突いた。

ようするに、ここはバス停だ。この町で席に座れて茶が飲める場所といえばここが精一杯だ。バス停標識のすぐ背後に、自動販売機が立っている。街灯を設置する予算がないので自動販売機を置いておくというのは、田舎のバス停によくある風景だ。夜中に照明がわりになる。売上げが維持費になる。

「茶あ飲めるんやで、カフェやに」

「詐欺だ」

「詐欺じゃねえわ、叙述トリックやさ」

「うるさいよ」

自販機の隣に、色のはげた水色のベンチが置いてある。勅使河原と早耶香がそこに並んで座っている。ベンチの背には、かろうじてまだ読める白抜き文字でアイスクリームの広告が書いてある。明治時代からここにあると言われても信じそうなくらい古い。

背後の民家は、元は駄菓子屋だったのだが、店主のじいちゃんが死んでからは廃屋だ。木の壁にはブリキでできたレトルトカレーの看板と蚊取り線香の看板が貼ってある。たぶんこの看板の広告タレントたちは③未来永劫ここで微笑み続ける運命にある。

お洒落カフェなんかこの町にあるわけないやろ。

そんなふうに言い捨てたい気持ちもあるのだが、言いたくない。

勅使河原は地元の土建屋の跡取りだ。「勅使河原建設」という、綾もへつたくれもない社名で、父親がその社長だが、社長というより「親方」とか「大将」とか呼んだほうが雰囲気は近い。

この町に建っている上物は、まず八割がた、勅使河原のところで造っているといっている。採石場を持っていて、コンクリ屋もやっている。

要は勅使河原は、④これ以上ないくらい地元を根を下ろした家の子だ。

御曹司なんていう、たいしたものではないが、この小さな町ではそれに近い見なされ方をすることが、ないでもない。

それはつまり、どういうことかといえば、どうあってもこの町から脱出することはできない境遇ということだ。地場の土建屋が、突然東京だの名古屋だの、福岡だのに進出するということは、原則的にありえない。ひたすら地元が稼ぎ場所だ。大学くらいは東京あたりに出してもらえたとしても、背中に紐がついていて、どうしても地元を引き戻されることになる。

そういう、⑤背中にゴムの紐が縫いつけられている感覚は、早耶香にはわからないだろうな。

勅使河原にも、「こんな町、永久に出て行ってやる」くらいの思いはあるのだ。

でも、そうはいかない。

(新海誠原作・加納新太著 『君の名は』 より)

問一 傍線部①「三葉は怒って帰ってしまった」について、主人公は何が原因だと考えているか、答えなさい。

問二 傍線部②「カフェ」について、実際にはどこのことだったのか、本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部③「未来永劫ここで微笑み続ける運命にある」について、どういうことを表しているか、後の選択肢から適当なものを選んで答えなさい。

ア 地域の人々に明るい笑顔を届け続けるということ。

イ 今後も開発が進まず何も変わらないこと。

ウ 古いものを大切にしながら暮らしていくこと。

エ タレントたちの人気が高く容易に置き換えられないこと。

問四 傍線部④「これ以上ないくらい地元を根を下ろした家の子」について、以下の問いに答えなさい。

(一) 具体的にはどういうことか、本文中より、十字で抜き出して答えなさい。

(二) どういう境遇にあることを示しているか、本文中より抜き出して答えなさい。

問五 傍線部⑤「背中にゴムの紐が縫いつけられている感覚」とはどういうことを指しているか、本文中から十五字程度で抜き出して答えなさい。

問六 この場面で描かれている主題について適当なものを、後の選択肢から選んで答えなさい。

ア 三葉や早耶香が勅使河原に騙された怒りを会話を交えて描いている。

イ 地元で縛られている勅使河原の心の葛藤を内面から描いている。

ウ 古い風景の残る田舎町のどかな情景を微笑ましく描いている。

エ 古くからのタレントを大切に地域の人々を描いている。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

オオカミが来たと言って村人を驚かしていた少年の話がある。どうせ子供のいたずらなんだから、本気になって逃げたりするからおかしいのさ、と笑うこともできる。本を読むと、さまざまな経験に学ぶことができる。この世にはあらゆる驚天動地のことが満ちているという印象をうけるが、自分は指一本痛まないから、そのうちに、ものごとの高をくくるようになる。

オオカミが来た、という話には現代人は驚かなくなっている。オオカミなんかいるものか

ね、とうそぶいていられる。ア、石油がなくなる、という話だとすぐ信じこむ。三カ月た

ってみるといつもよりたくさん輸入されていたそうだが、後の祭りである。トイレットペーパーがなくなるらしい、という噂が流れる。すると有金をはたいてもロールを買いあさる。小さな何DKとかの一室がほとんどいっぱいになるほど買い込んだ人がいる、という。これもおそらくデマであろうが、噂が広まる。イ、じっとしては明日か

らでもトイレで不自由するようなあわて方をする。洗剤もないらしい。いや、砂糖も不足らしいというようなことで、目の色を変えて寒空を走りまわった。①いい運動になったであろう。

やっぱりオオカミは来なかったではないか、政府はもっと早く手を打つべきであったのだ。

②オオカミ少年の役を演じた新聞はそんなことを書いてバツの悪さをごまかしている。いつの時代にも、オオカミが来たと言って儲ける人間、おもしろがる人間はいるものである。

③石油ショックのときの買いあさりにしても、一般の人間が長いあいだ、ものは買いたいときにくらでも買えるという考えになれてしまって、不自由さを知らず、したがって、逆に心のどこかではそれをひどく怖れているところに源を発している。戦時中の苦しさを経験した人たちは、さっそくかつてのA買いだめを実行したグループと、こんなに物があるのなら、まだあわてることはないとB達観したグループに分れた。ところが、戦後の世代はすべてと言ってよいほど買いあさに狂奔した。ウ、実地の経験はつよいということか。

オオカミが来たという情報には平然としていられても、いざほんとうに山犬がやってきたら腰が立たないかもしれない。

家康が、人生は重き荷を負って遠い道を行くようなものだと言った。こういう言葉をどれだけ頭の中でわかつたつもりになっても、④それは絵に画いた餅ほどの意味もない。重い荷物をもつということも実感が無い、遠い道を行くのは当然クルマでしようね、飛行機ですか、などという連中には、家康の言葉は比喩としても成立しないかもしれない。

(外山滋比古「比喩の梯子」より)

問一 空欄ア～ウに適切な語句を後の選択肢から選び、答えなさい。

〔選択肢 そうすると ・ やはり ・ ところが ・ すなわち 〕

問二 傍線部①「いい運動になったであろう」に込められた著者の思いはどういうものか、適当なものを次の選択肢から選び答えなさい。

ア 運動不足解消をうらやましく思っている。

イ みんなで汗を流せたことを誇らしく思っている。

ウ 右往左往した人々を皮肉っている。

エ 効果的な運動ができたことを喜んでる。

問三 傍線部②「オオカミ少年の役を演じた新聞」は、具体的に何をしたのか、適当なものを次の選択肢から選び答えなさい。

ア 噂を流した

イ 面白がった

ウ 買いあさりに狂奔した

エ バツの悪さをごまかした

問四 傍線部③「石油ショックのときの買いあさり」について、それは何が原因だと著者は考えているか、本文中の語句を四字で抜き出して答えなさい。

問五 二重傍線部A「買いためを実行したグループ」と二重傍線部B「達観したグループ」の違いは何だと著者は考えているか、本文中の語句を抜き出して答えなさい。

問六 傍線部④「それは絵に画いた餅ほどの意味もない」というのはなぜか、その理由を答えなさい。

四 次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

これも①今は昔、てんりやく天曆のころほひ、②浄蔵が八坂の坊に、強盗その数入り乱れたり。

然るに火をともし、たち太刀を抜き、目を見張りて、おのおの立ちすくみて、更にする事なし。

③かくて数刻をふ経。④夜やうやう明けんとする時、ここに浄蔵、本尊に啓白して、

「⑤早く許し遣はすべし」と申しけり。その時に盗人ども、いたづらにて逃げ帰りけるとか。

(『宇治拾遺物語』より)

〔語注〕

浄蔵…三善清行の八男。十二歳で比叡山で授戒し、管弦(音楽の道)に優れ、

祈祷に靈驗を現した。

天曆…村上天皇の時の年号、九四七～九五七年。

経…(時間や月日が)経過する。古代の一刻は約三十分。

敬白…仏、菩薩に敬い申すこと。

問一 傍線部①「今は昔」について、適当な現代語訳を次の選択肢から選び、記号で答えなさい。

ア 現在は昔だが、

イ 今こそ昔に戻るべきだが、

ウ 今となつては昔のことだが、

エ 現在は昔が懐かしいが、

問二 傍線部②「浄蔵が八坂の坊に、強盗その数入り乱れたり」について、適当な現代語訳をつぎの選択肢から選んで答えなさい。

ア 八坂の浄財が納められている蔵に強盗が数人乱入した。

イ 浄蔵が八坂の住まいに強盗に入った。

ウ 浄蔵の八坂の住まいに強盗が数人乱入した。

エ 浄蔵と強盗が八坂の住まいに乱入した。

問三 傍線部③「かくて数刻を経」について、浄蔵のもとへ乱入した強盗たちは、数刻の間、

どうなっていたのか、答えなさい。

問四 傍線部④「夜やうやう明けんとする」を現代語訳しなさい。

問五 傍線部⑤「早く許し遣はすべし」について、話しているのは誰か、後の選択肢より適当なものを選び答えなさい。

〔選択肢 強盗・浄蔵・本尊・作者・盗人〕

問六 結局強盗はどうなったのか答えなさい。

問七 この説話の趣旨はなにか、次の選択肢から適当なものを選んで、記号で答えなさい。

ア 当時の社会が治安に課題があったことを語っている。

イ 浄蔵がいかに不用心であったかを語っている。

ウ 浄蔵の靈験の高さについて語っている。

エ 盗人たちの間抜けさについて語っている。

## 五 作文

先日、宇宙飛行士の若田光一さんが五度目の宇宙ステーション滞在に出発しました。もしあなたが宇宙ステーションに滞在するとしたら、宇宙ステーションでどのようなことを行いたいですか。

- 1 原稿用紙の書き方に従うこと。
- 2 題名・氏名は原稿用紙のマスの中には書かないで、始めの行から書きだすこと。
- 3 字数は百五十文字以上、二百字以内とする。
- 4 できるだけ漢字を使って書くこと。

